

旅行報告書

会 派 名 無限21

会派代表者 田中 睦

令和3年11月30日

旅行者氏名	旅行者氏名
田中 睦	
藤本 壽子	
杉迫 一樹	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 令和3年11月 8日（月）から
令和3年11月10日（水）まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	用務の概要
鳥取県日野郡日南町	国民健康保険日南病院 ・ 地方公営企業繰出金と交付税算定額の取り扱いについて
徳島県勝浦郡上勝町	月ヶ谷温泉 月の宿 ・ 上勝町役場の取り組みについて ・ 彩事業について ・ ゼロ・ウェイストの取り組みについて

無限21 行政視察報告書

報告者 田中 睦

日程 令和3年11月8日(月)～10日(水)

視察場所 鳥取県日野郡日南町国民健康保険日南病院
徳島県勝浦郡上勝町

参加者 無限21：田中睦、藤本壽子、杉迫一樹

※日南病院のみ…市政創造クラブ：岩阪雅文、淵上茂樹

視察の概要

1 日南町国民健康保険日南病院（11月8日）

(1) 日南病院の概要

・昭和37年に内科、外科、産婦人科、27床で開設。現在は内科、外科を始め、鳥取大学医学部などからの応援を得て、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、皮膚科の7科の診療体制をとっている。

・平成17年に地方公営企業法全部適用で事業管理者設置

・町三役(町長、副町長、総務課長)は病院勤務歴がある。

・平成25年度まで黒字経営。平成30年に地域医療総合確保基金を創設。

・「町は大きなホスピタル」を掲げ、安心して暮らせる地域医療を展開している。

外来診療・入院患者の診療のみならず、往診・訪問看護・訪問リハビリを行う。町の地域包括支援センターが主催する在宅支援会議が週1回開かれ、医師、看護師、ケアマネージャー、介護職員など多職種から参加があり、在宅療養患者の情報交換や支援等を検討している。

(2) 病院事業への繰出金

①法的根拠

地方公営企業法第17条の2に経費の負担の原則が示されている。それによると、病院経営は独立採算が原則であるが、独立採算の外にある経費(救急医療)や独立採算を超える経費については自治体の負担となる、という説明があった。

また、第17条の3には補助について、18条には出資について、それぞれ病院の特別会計に入れることができるとある。



②総務副大臣通知

※地方公営企業の経営の健全化を促進し、その経営基盤を強化するため、公営企業繰出金を計上する。その基本的な考え方を示している。

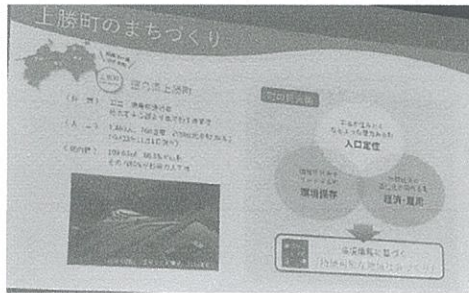
- 1 病院の建設改良に要する経費
 - 2 へき地医療の確保に要する経費
 - 3 不採算地区病院の運営に要する経費
 - 11 救急医療の確保に要する経費
- など、一般会計が負担する経費とされている。



2 上勝町（11月9日）

(1) 上勝町役場の取り組み

徳島県のほぼ中央部に位置する、人口1472人高齢化率53%（10/1現在）の四国で一番小さな（人口の少ない）町。1955年に町村合併により上勝町になる。林業とみかん栽培が中心だったが、1981年の異常寒波でみかんが枯れてしまい、新しい産業の開発を余儀なくされた。当時JA職員だった横石知二さんが1986年にいろどり（彩）事業を始め、1999年に（株）いろどりを設立する。

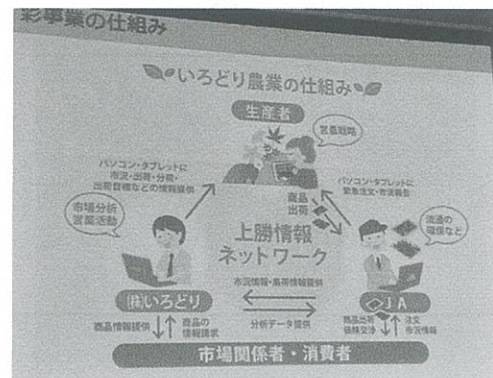


町としては持続可能な地域づくりに取り組んでいる。I・Uターン促進のため、廃校を利用した集合住宅を設置。無料の公営塾やフィジーへの短期留学などを実施している。「いっきゅう（1Q=Question）と彩の里」をキャッチフレーズに、活性化を競うまちづくり活動「1Q運動会」を開

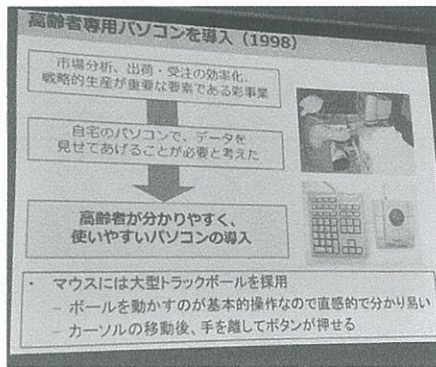
いている。

(2) 葉っぱビジネス（彩事業）

1981年の異常寒波によりみかんが枯死してしまう。その後葉物野菜やシイタケ栽培に取り組み、高齢者や女性を取り組みやすい葉っぱを「つまもの（日本料理を美しく彩る季節の葉や花）」として販売することにした。1986年に4軒で始まった本事業は、今年年商2億6000



万円を超えるまでに成長した。現在は約200軒の農家が320種の葉っぱビジネスに取り組んでいる。80歳を過ぎてもパソコンやタブレットを扱い、「こんな楽しい仕事はない」と元気に働く高齢者の姿がある。年収1000万円超の農家もある。



生産者・いもどり・J A・市場が情報共有し、いもどりから農家に向けて取引先からの注文を一斉配信する。農家はいもどりからの情報で出荷品目や数量を決めるだけでなく、どの時期にどのような商品を出せばよいかなどを意識するようになった。その結果、商品の質が向上し、単価も上がっていった。

(3) ゼロ・ウェイストの取り組みについて

- ・1997年までは野焼きをしていた。1998年に焼却炉を導入したが、ダイオキシン規制により3年で使用できなくなった。
- ・2001年に焼却炉を閉鎖し、ゴミの33分別を始めた。2003年に日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言をし、ゴミを出さない社会を目指し、ゴミ収集を行わない町になった。
- ・2020年にゼロ・ウェイストセンターができ、住民がゴミステーションに持ち寄って分別している。自分で持ち込めない人には運搬支援制度があり、無料で収集に回る。生ごみはコンポストを使って家庭で堆肥化を図る。現在は45分別、リサイクル率は81.1%である。
- ・さらにゴミになるものを減らす(リデュース)ため、事業所や企業の協力を得ながら、埋立てごみとしていたものを資源として活用する取り組みを進めている。また、量り売りで容器包装をしないことや布おむつの配布などの取り組みも行われている。



ゼロ・ウェイストセンター



- ・ゴミステーション：町民がごみを持ち込み分別を行う。
- ・くるくるショップ：まだ使えるものを持ち込み、持ち帰ることができる。
- ・宿泊棟：ゼロ・ウェイストを学び、体験したい人が利用できる。
- ・ホール：誰でも使えるフリースペース。
- ・分別されたごみを処理するのに必要な金額と資源として買い取られる金額が表示されている。